



## 特集 「地域とともに歩む武蔵野会」 コロナ禍での地域連携



### トピック 多様性の尊重と確認バイアス

多様性尊重の重要性は世界中で共有されています。「誰一人取り残さない」というSDGsの理念に表れていることでも分かります。しかし、多様性にも国籍、人種、文化、男女、障害、価値観、学歴等様々な視点があります。多様性を尊重することは、その違いを知るだけでなく、受容して対等な関係を築くことが重要ですが、日本は島国で同質を求めやすいと言われ、ジェンダー平等の指標を見ても、世界の100位に遠く及ばず、多様性の尊重に課題が多い国と言えそうです。上記を踏まえ、現在では「ダイバーシティ(多様性)」とインクルージョン(包摂)」と、まとめることで、様々な視点を理解し、一緒にいるだけでなく、互いに受け入れ協力しあうことで、持続性を高める新たな社会に繋がっていくと言われています。言わば人類生き残りのキーワードです。

多様性の尊重は、様々な立場の人たちがお互いを受け入れることから始まります。当法人の理念は「自分を愛するようになあなたの隣人を愛せよ」であり、自分を愛する(理解して受け入れる)ように、隣人を愛する(理解して受け入れる)と解釈しています。人を理解し受け入れるためには、自分理解が十分でないとうまくいかないということです。自分理解は難しく、真摯に自分と向かい合わないと、自分の偏見が勝ってしまいます。

偏見の中でも確認バイアスは、多様性の尊重から自分を遠ざけます。先入観や認識の歪みから、自分が信じる情報ばかりを集め、反対意見やデータを無視してしまう傾向で、誰にでもあると言われています。確認バイアスの問題点で最も陥りやすいのが性別や年齢、学歴や職歴などでその人を判断するステレオタイプ思考です。特定のステレオタイプが生じると、そのステレオタイプを強化する情報に着目するので、多様性の尊重が、無意識にできなくなります。そして、同じ価値観の同質者間で多様性を尊重するという歪んだ状況を生み出すことになりかねないのです。

福祉従事者は様々なバイアス(先入観、既成概念、偏見)と闘う仕事で、多様性の尊重を重んじる仕事です。常に自分の言動を振り返り、確認バイアスに陥らない努力の継続を自分に課すことが重要だと思っています。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 高橋 信夫

# 特集

## 「地域とともに歩む武蔵野会」 コロナ禍での地域連携

### すまいる広場

(小平福祉園)

すまいる広場は、開始から5年目となりました。毎週土曜日の10時から15時まで体育室に遊具を準備して発達にお困りの親子が気軽に遊べる場所として開放しています。職員1名が見守りや子育て相談を行い、交流を大切にしています。障害の有無に関わらず誰もが自由に遊べる雰囲気から、他事業所や当事者の口コミが広がり、障害のある親子は無論のこと、外国籍の方など多様な親子の参加が続いています。外出自粛やリモートワークで家族の孤立や子育ての困難さが浮き彫りになっている時だからこそ、消毒や換気を徹底して広場を続けています。消毒は保護者の皆さんや、小学生の兄弟も見よう見まねでお手伝いしてくれま



温かなすまいる広場です

す。土曜日開催は父親の積極的な参加や、第2・第4のスマイル食堂のお弁当配布、創作活動ワークショップに参加した親子の利用も

### あやめカフェ

(西水元あやめ園)

地域公益活動として行っていた認知症カフェ「あやめカフェ」は、コロナ禍のため現在集合式の開催を見合わせていますが、関係が続けられるようお集まりいただいた方々との情報交換誌「あやめカフ



地域とつながる～あやめカフェ通信

エ通信」の発行と地域向けの公開認知症セミナーを開催しました。通信は、施設からの情報発信だけでなく、毎号地域の方々のコーナーを設けています。最新号では葛飾区高齢者総合相談センター水元の笹原修司所長から温かいメッセージをいただきました。公開認知症セミナーは、当園利用者ご家族や地域の福祉サービス事業所の方々にご参加いただき、株式会社 Professional Worksの島田孝一先生にオンラインでご講義いただきました。地域の方々の活動は、未だ華々しくはありませんが、地域の方々の活動や関係作りを少しずつ模索し、発展させていこうと思っています。

### むさしの武蔵野

## ラグビー精神 から学ぶ

3年前、ラグビーワールドカップが日本で開催され、にわかファンも含め大いに熱狂したことが昨日のように思い出されます。そのワールドカップを来年に控え、また少しずつではありますがラグビーの話題が多くなってきたように思うのは自分だけではないと思います。

ラグビーの国代表は多国籍で他のスポーツとは少し様子が違うこととはご存じでしょうか。多くのスポーツ(極端に言えばラグビー以外のスポーツ)はその国の国籍が取れないと代表にはなれないのですが、ラグビーは一定の条件を満たせばその国の代表になれるのです。これはラグビーの発祥と発展の経過に関係しているようです。

その経過の詳細はここでは省きますが、多様化した今の社会にマッチしているという声と、馴染まないという声があるようです。世界的に見れば、比較的多民族が生活している国はこの多国籍を受け入れ、単一民族の国では抵抗感があるようです。まあ、考えてみればそれは自然な気もしますが。

日本は単一民族に近い国家ですから当然後者に当てはまるでしょう。大相撲の世界では未だに国籍

### 地域と共に

(生活支援センターすてっぴ)

地域生活支援センターは、相談支援を中心に、居場所機能や地域活動を促進する機能を持っています。コロナ禍では障害分野は無論、児童から高齢者まで長期の地域活動委縮が問題となりました。特に重症化が懸念される高齢者では、地域のフォーマル、インフォーマルな活動が大幅に縮小され、地域活動の委縮が顕著でした。センターでは対象を限定せず、「地域で共に活動し楽しむ」を課題に、様々なプログラムを行っています。コロナで活動機会が奪われた皆さんを取り込み「地域活動を止めない」という意思を共有し、共生型の活動を継続しました。

4月から6月には地域住民とつくる「音楽ワークショップ」を実施し多くの高齢者にご参加いただきました。6月19日の音楽祭では、地域の大正琴サークルとの共演も実現しました。今回は規模が小さく柔軟な運営が可能な障害者支援の特性を生かし「地域と共に」を実現しましたが、この絆を生かしてコロナ後に向けお互い様の関係を築いていきたいと思えます。

### 元本郷お助け隊

(八王子福祉作業所)

作業所の近くでは一人暮らしの高齢者が多く住んでいます。その人たちのために私たちは、「元本郷お助け隊」を結成。利用者と職員が依頼主を訪問してちょっとした困り事を解決することがミッションです。これまで「通信販売で買った座椅子が組み立てられない」「猫のエサが買いに行けない」「タンスの上の衣装ケースが降ろせない」といったご相談をいただきましたが、中には「寝たきりのご主人がずり落ちてベッドに戻せない」という困り事もありました。お助け隊は電話で直ぐに駆けつけます。5分で1000円の代金を受け取る際に、「助かりました。あなたたち、本当に頼りになるわね、ありがと、また頼むわね」と感謝の言葉も頂きます。利用者も「ありがとって言われちゃったね、ありがとって」と戻る道のりは充実感で一杯です。ある時、「不要になった洗濯機を粗大ゴミに出して欲しい」とご依頼がありました。同時期に他から「コインランドリーに洗濯物を持って行くのが億劫で」という相談を受けていました。もちろん、双方にその話をし、無事に現在も

### 文藝碑の清掃

(大島恵の園 第2大島恵の園)



また、お願いしますね

大島には明治から多くの文人が訪れています。その思い出を詩や短歌にして文壇に発表しています。例を挙げるとときりがありません。幸田露伴、与謝野晶子、野口雨情、林美美子など、明治から昭和にかけてその時代を代表する著名な方たちです。大島の「波浮の港を愛する会」では、その作品を石に刻み、波浮地区に設置しました。都道や海沿いの道、波浮港や椿のトンネルがある側道などに点々と置かれ、その道を文学の散歩道と称しています。歩きながら文学に触れられる設定です。波浮の港を愛する会から「文芸碑の掃除をお願いしますか」と話が合ったのが、平成31年です。

を取らないと親方にはなれず、かつて「黒船襲来」と言われた小錦関(元大関)が横綱になれなかつたのは「自分がアメリカ人だから」と涙を流した過去もあります。多くのスポーツが外国人を「助っ人」と呼ぶのも同じですね。目に見えない壁が日本人との間にはあるのでしょうか。

ここで国籍の是非を問うつもりはありませんが、同じ目的を持った者同士が心をひとつにして技術を高めあうのに人種の違いを問うことに意味は無いように思います。

ラグビーでは試合が終わること「ノーサイド」と言いますが(この表現は日本だけのようですが)これも試合が終わったなら「敵・味方なく相手を讃えあい賞賛する」精神から来ているようです。ラグビーに関しては私も「にわかファン」ですが、他の競技と少し違う雰囲気を感じ特別な感情を持つことがあります。人種や思想の違いを超え、相手を認め、受け入れ、賞賛する、そんな姿に心が動かされます。多様化していく社会、それを動かすのは私たち人間です。皆がひとつになれる世界になると良いですね。

武蔵野児童学園

施設長 矢口 俊夫

「地域のためなら」と、草刈りや碑の掃除を定期的に行うことになりました。草刈りは職員の仕事休みの日などに自分の都合で草刈りをします。利用者には、日中の空いた時間に、石碑に苔がつかないようにタオルで拭き掃除をお願いしました。2カ月に1回程度ですが、気候のいい日を選んでドライブがてら出かけます。皆さんはドライブ外出の延長として楽しんでくれています。



心を込めて文藝碑を磨きます

### 城山かわせみ塾

(武蔵野児童学園)

2020年9月から、無料の「城山かわせみ塾」が町内に開塾しました。学区内中学校の不登校生徒の居場所となっています。施設長が委員の一人になっている小

### 玉川支援ねっと

(九品仏生活実習所)

中学校運営協議会の運営委員と地域のボランティアで運営され、週1日2時間、近隣の通信制高校の一室で開かれています。現在は数名の生徒が通っており、スタッフは運営委員のほか元学校教員、子どもを持つ地域の保護者、通信制高校の生徒(ピアサポーター)が塾生と時間を過ごしています。児童学園の職員もスタッフとして参加します。「塾」といってもいきなり学習に取り組むのは難しいため、まずは来たことを労い、関係作りのためトランプやネットゲーム、目の前の畑で農作業などを行っています。コミュニケーションが苦手な子どもも多いので慣れるまで時間が必要な子どももいます。彼らの存在を受け入れるうちに彼らも安心して心を開き、次第にかわせみ塾に通うのを楽しみにしてくれるようになっていきます。



畑が広がる城山かわせみ塾

玉川支援ねっととは、世田谷区玉川地域の三障害の施設と行政が集まり、地域のネットワーク強化や相互連携を目的に玉川エリア自立支援協議会から派生した組織です。現在は11の事業所と社会福祉協議会、区、相談支援事業所などで構成されています。活動は、年に1回の「利用者交流会」「職員交流会」の実施があります。以前の利用者交流会は、会場を借りてコンサートやレクを楽しみました。職員交流会は、外部講師の研修と食事を楽しみながら親睦を深めましたが、コロナ禍でこれまでの形が難しくなりました。それでもZoomを利用して話し合いを重ね、支援ねっとの在り方をもう一度話し合い、連携することの意義を再確認出来ました。

その中で出来る事として、アート作品による交流を行いました。各施設のアート作品を交互に展示し、利用者のリアクションを伝えました。今年度はさらに輪を広げ、アート作品を社協事務所に飾り、地域のお祭りに展示することになりました。これからも、地域との交流・連携が増えるように取り組んでいきます。



展示された利用者のアート作品

### 百間は一投にしかず

「ポッチャで心のバリアフリー」  
(東掘切くすのき園)

当園は3年前に設立された葛飾区ポッチャ協会と連携、夜間や週末に、区民を対象とした競技会や審判講習会、協会理事会など様々な事業開催に協力し、障害の有無や世代に関わらずスポーツが楽しめる環境作りや心のバリアフリーを目指しています。

2020パラリンピック東京大会で日本選手が金メダルを獲得したこともあり、多くの方々に知られるようになったポッチャですが、世代や障害を問わず、同じルール

で楽しめるのがパラスポーツのポッチャの良いところ。当園では利用者の日中活動メニューに取り入れ、内部開催とした本年度のくすのき祭ではグループ対抗のポッチャ大会が盛況でした。投球が難しい利用者はランプというすべり台のような補助具を使ってゲームに参加することが出来ます。

当園では今後も、バリアフリーな建物やスタッフの専門性を活かし、ポッチャアスリートの育成や支援、子どもたちから高齢の方々まで近隣住民の皆さんが気軽に参加できるイベント運営などにポッチャ協会と協働して取り組みたいと考えています。

当園を事実上のホームコートにして、小学校への出前授業や区内



心も体もホットに  
～第5回はばたけ葛飾ポッチャ大会

諸イベントなど活動の幅を拡げ賛同者を増やす葛飾区ポッチャ協会は、昨年12月「障害者の生涯学習支援活動に係る文部科学大臣表彰」を受賞し、当園でも皆で受賞を喜びました。

東京パラリンピック金メダリストの杉村英孝さんはポッチャの魅力「百間は一投にしかず」と強調します。本誌読者の皆さんもまずはポッチャを体験して楽しんでみませんか。

### 出来ることから始めよう

(リアン文京)

コロナ禍で行ったいくつかの活動を紹介します。

広報は放課後等デイサービスがおらを中心に、毎日インスタグラムを更新しました。常に簡単な言葉で「ともに生きる」というメッセージと、施設に咲く花々など明るい気分になれる写真を選んでアップしました。地域活動支援センターや生活介護では事業のオンライン化を進め、在宅の方向に言語聴覚士による言語訓練メニューを開発し現在も続けています。同様に子育てひろば事業ではオンライン子育てひろばを毎日行いました。顔見知りの職員と家庭がつながり、おしゃべりや手遊び、歌などいろ

いろなメニューを提供しました。就労継続支援では入所施設内での感染に備え防護服とフェイスシールドの作成を請け負い、フェイスシールド98個、防護服800枚を納めました。また、利用者作品でポストカードを作り、日頃から付き合いのある団体、企業の皆様へ「一緒に頑張ろう！」のメッセージとともに1500通送付しました。皆さんから「元気を貰えた」との声を頂戴し、私たちに嬉しい出来事になりました。



素敵なカードができました

### つながりを大切に

(文京福祉センター江戸川橋)

当センターではシニアの方の孤立やフレイルを解消する取り組みを行っています。感染拡大時

は2ヶ月間休所し、その後も断続的に中止せざるを得なくなりました。そこでアウトリーチの方法を職員で考え、シニアの方に手紙を差し上げることにしました。最初の手紙は「体を動かしましょう」でしたが、その後は体操・栄養・咀嚼・脳トレ・塗り絵・コロナ罹患時に役立つ情報など、生活に必要な様々なものを送りました。約1年間で9回発送し、合計5823通になりました。

また、全ての手紙で「元気でまたお会いしましょう」とメッセージを伝える中で、シニアにもユーザーが多いLINEアプリを使った「公式LINEチャンネル」開設と「YouTube」活用などが現在の各種デジタルバイド対策の事業につながっています。現在も感染症の心配は続いています。これからも今必要なものを取り入れてシニアの方々の生活向上に努めていきます。



アマビエチャレンジ

## ニユース ラウンジ

### 三多摩児童養護施設 リーガルサポート事業

武蔵野児童学園

2021年度途中から、三多摩地区の児童養護施設を対象に多摩地域の弁護士によるリーガルサポート事業が始まりました。もともと各施設の職員が児童の施設退所後のアフターケアにおいて法的な内容が絡む相談を多摩地域の有志の弁護士に相談していた経過があり、また多摩ユースサロン（多摩地域の施設退所者の居場所）でも退所された方から弁護士に相談のあることがありました。

相談内容は、経済的困難による各種支払い滞り、本人にとって不利益な契約をしてしまったことによる高額請求、職場での賃金トラブル、女兒（女性）の予期せぬ妊娠トラブル等、多岐にわたります。そこで、施設職員が弁護士に法的相談ができる仕組み「三多摩児童養護施設リーガルサポート事業」が正式に立ち上がりました。

これにより、施設職員が弁護士に入所児童・退所者の法的相談がしやすくなり、法的トラブルが解消されました。相談内容は、経済的困難による各種支払い滞り、本人にとって不利益な契約をしてしまったことによる高額請求、職場での賃金トラブル、女兒（女性）の予期せぬ妊娠トラブル等、多岐にわたります。そこで、施設職員が弁護士に法的相談ができる仕組み「三多摩児童養護施設リーガルサポート事業」が正式に立ち上がりました。

### 朝のラジオ体操

練馬区立大泉町福祉園

当園の地域交流活動の一つとして、昨年度から近隣の皆様とともに、朝のラジオ体操を行なっています。毎週水曜日の朝8時30分から園庭を開放して行っています。幼児から90代の高齢の方まで参加していただいています。短い時間ですが、毎週続けていくなかで、地域の方々と職員、そして地域の方々同士も交流ができ、繋がりが合う場になっていくことに意義を感じています。

福祉園近隣の町会の掲示板にポスターを貼らせていただいたり、回覧板にチラシを入れさせていただいたりしてご案内しています。はじめは参加者が少ない日もありましたが、掲示板や回覧板をご覧になっていらした方、犬の散歩中の方が通りすがりに参加していただいたりして、少しずつですが参加人数が増えています。

7月から「ピアサポーター養成・活躍支援事業」を世田谷区から受託しました。この事業は、自身の障害や病気の経験を活かす、仲間として支え合う活動を行



近隣の方々と一緒にラジオ体操

### ピアサポーター養成・活躍支援事業

鳥山地域障害者相談支援センター  
ぽーとからすやま

この研修は「どの活動も優劣なく、社会にとって等しく価値があり、尊重される個々の経験や心身の状況、強み、希望に応じて、当事者本人が選択できる」を世田谷区の目指す姿として実施しています。これは国や東京都で実施しているピアサポーター養成研修とは主旨が異なるため、世田谷区独自の基礎研修カリキュラムを作成しました。研修中から参加者の気持ちに寄り添い、研修後は世田谷区の登録ピアサポーターとして、区内の施設や事業所等で活躍出来るよう支援していきます。世田谷区登録ピアサポーターが、地域の支えあいやリカバリーのバトンを繋いでいくことで、地域共生社会の実現に向けた一歩となるように歩んでいきたいと思っております。

世田谷区精神障害者ピアサポーター研修 基礎研修 カリキュラム (案)

項目	内容	時間	講師	会場	備考
1. 研修の意義と目的	ピアサポーターの役割と意義、研修の目的と目標	13時30分～14時30分	講師	世田谷区福祉センター	
2. 基礎研修	基礎研修1：自己紹介と自己理解、基礎研修2：傾聴の技術、基礎研修3：自己開示の技術	14時30分～16時30分	講師	世田谷区福祉センター	
3. 実践研修	実践研修1：模擬相談、実践研修2：実践相談	16時30分～18時30分	講師	世田谷区福祉センター	
4. 研修の振り返り	研修の振り返り、今後の活動の展望	18時30分～19時30分	講師	世田谷区福祉センター	

研修カリキュラム (一部抜粋)

ルへの対応や児童（退所者）の権利擁護、社会的自立をサポートすること等につながることを期待されます。施設職員と弁護士が連携することでより良い入所児童支援につながることも、保護者等の後ろ盾がない退所者にとっても本人をサポートする専門家が揃い、とても頼もしい事業となっています。



弁護士と連携して作成した法的相談事例集

### はちおうじ農業塾

八王子福祉作業所

八王子福祉作業所は、今年度4月から「はちおうじ農業塾」に第12期生として参加しています。八王子市が遊休農地活用支援事業として取り組んでいる農業研修事業で、農家開設型農園の利用や農作業の受託などを行うことができる程度の農業技術と知識を身につけること、また福祉農園等の開設支援を推進す



マルチの穴あけ作業

ること（農福連携）を目的としています。研修期間は約2年間で、研修カリキュラムに基づき、露地栽培を中心とした野菜づくりについて、現役農家の方や長年野菜づくりに携わってきた専門家による実習や講義、11期生のアドバイスを受けながら農作物づくりに奮闘中です。



さくら学園  
さくら学園ではこれまで保育系短大の教育実習を受け入れていたが、この度、御殿場看護学校への講師派遣並びに体験学習の場として看護学生の受け入れを始めました。

練馬福祉園  
毎年楽しませていただいているドミンゲイロ・ド・サンバを今年もお招きする予定です。可能な範囲で地域の方も楽しめるよう企画しています。もう一つの楽しみは、施設の建替えです。年内には既存建物の一部解体が始まります。

駒沢生活実習所  
施設周辺の掃除をしていると、近隣の方に「ご苦労様」と声をかけていただきました。嬉しかったです。とても小さな地域かもしれませんが、ひとつひとつの地域を大切にしていきたいと改めて思いました。

九品仏生活実習所  
夏の終わりを惜しみながら、盆踊り会を施設内々で楽しみました。今、秋の行事の準備を進めています。感染が治まらない状況が続く、皆様にはご心配をお掛けしております。安心して登園いただける日が戻るよう願っています。

八王子生活実習所  
今年のわたぼうし祭りも、地域の方をお呼びしない、内部のお祭りとなりましたが、その分アトラクションや模擬店をゆっくり楽しむことができました。来年こそは、にぎやかなお祭りをしたいと思います。

希望の里  
3B体操とは、「ボール」、浮き輪のような「ベル」、大きな輪ゴムをつないだ「ベルダー」、この3つの頭文字から名付けられた体操です。コロナ禍で今まで出来なかった運動指導だったので、新しく3B体操をやることになり、利用者さんは大喜びです。

鳥山福祉作業所  
世田谷みやげの商品PRで群馬県の道の駅、「川場田園プラザ」へ出店しました。世田谷区と川場村が縁組協定を締結した40周年の記念会場でも販売をさせていただき、今後の新たな生産活動につながる良い機会でした。

さね川福祉作業所  
米油など原材料の高騰を受け、「葛飾かりんと饅頭」の価格改定を9月から実施しました。この価格改定が、今後の売り上げにどのような影響を及ぼすのかは未知数ですが、今までと同様に饅頭作りに真摯に向き合っていきます。



## 車両貸与協定締結

さくら学園

御殿場市社会福祉協議会と車両貸与について協定を結びました。さくら学園がある御殿場市保土沢区では高齢者の外出機会や交流の場として区民会館で「保土沢いきいきサロン」を行っています。これまで歩行に問題がなかった方も昨今のコロナの影響で外出を控えた影響もあり、歩行状態に課題が出てしまい、今回社協を通して送迎車をお借

りできないかと申し出がありました。月に1回の貸し出しですが、地域貢献ができるのならばとお受けすることにしました。先日、御殿場市社会福祉協議会で締結式があり、地元新聞にも掲載して頂きました。今後も地域福祉の発展に寄与できるようにしていきたいと思えます。



地元紙に掲載されました

## 職員募集のお知らせ

法人本部

今年の夏に「1泊2日伊豆大島施設見学ツアー第2弾」を開催しました。「伊豆大島の福祉施設でどんな仕事をしているのか」「どんな生活をしているのか」活動体験をしたり、みなさんと施設の給食を食べたり、職員さん行きつけの商店や観光地を巡るなど盛りだくさんのイベントでした。ホームページのブログにもツアーや施設の様子を掲載しています。個別の見学や面接も実施中です。

引き続き、利用者さまの入浴やお食事、余暇活動等の生活支援をする職員を募集しています。都心から一番近い自然豊かな伊豆大島で福祉のお仕事にチャレンジしてみませんか。お問い合わせでも求人募集についてご興味のある方がいらっしゃいましたらご紹介いただけますと幸いです。お気軽に武蔵野会採用担当にご相談ください。

☎042・631・6341

mail:recruit@musashinokai.jp

QRコードから詳しい求人情報や施設内の様子などをご覧ください。



施設から一番近い波浮港です

## ハロウィーン期間限定

## オバケメレンゲ

八王子福祉作業所

☎042・626・0631

秋の味覚フェア&ハロウィーンシリーズのご紹介です。

Hachiwell labcateのメレンゲは通常いちご・紅茶・ココナッツの3種類ですが、ハロウィーンまでの1ヶ月間だけ登場する、紫芋のメレンゲがあります。見た目も楽しくおぼけの形をしたオバケメレンゲです。シユワツと溶けて無くなつていく感覚がやみつきに♪ぜひお試しください。



かわいいオバケメレンゲ

## お知らせコーナー

### 10月

22日(土) 令和4年度武蔵野会オンラインセミナー (法人)

### 11月

2日(水) 第21回くすのき祭(東堀切くすのき園)

10日(木) 実践事例集表彰 (法人)

11日(金) 葛飾区障害者作品展 (葛飾地区)

17日(木)

17日(木) 永年勤続者表彰 (法人)

18日(金) 実践事例報告会 (世田谷地区)

24日(木) Session! TOKYO2022

26日(土) (障害者週間記念行事)

### 12月

3日(土) 実践事例報告会 (葛飾地区)

23日(金) クリスマス会 (東堀切くすのき園)

24日(土) クリスマス会 (八王子生活実習所)

## 武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する事業所の利用者のためにより良い環境や施設の充実、円滑な運営などを物心両面から支える組織として武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により会の拡大を図り、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3

電話・FAX 042-626-9772